

札東商高第 1030号

平成27年 7月27日

(株)TBSサービス 川上孝裕様

北海道札幌東商業高等学校長

逢見稔



『「また、必ず会おう」と誰もが言った』学校上映の終了について（お礼）

盛夏の候、貴殿におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、このたびは、映画『「また、必ず会おう」と誰もが言った。』の学校上映という貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございました。

上映会では、自分たちと同じ高校生が、なんとなく過ごす毎日の中で、出会いを通して成長していく姿、そして旅先で出会った人たちの言葉と心に、多くの生徒が考えさせられたように感じます。感じ方は十人十色ですが、「原作を読みたい」「主人公の帰宅後が気になる」などの声が聞かれ、それぞれの心にそれぞれの形で印象を残してくれたのではないかと考えています。

生徒たちには、これからも、自他を思いやることのできる大人になってほしいという願いを込めて、継続的な支援をしていきたいと考えております。

今後ともご指導くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

映画上映会『「また、必ず会おう」と誰もが言った。』

◆目的および映画鑑賞のポイント◆

- ・ 思春期から青年期を迎えるにあたって、自分という存在を改めて意識し、これまでの言動に向き合う。
- ・ 生きることの意味、命の尊さ、家族とのつながりについて考え、将来の自分の姿を思い描く。
- ・ 人を思いやり、自分の可能性を信じることの大切さに気づく。
- ・ うまくいかない事から逃げずに向き合うことで、自己解決能力が身につくことを知る。

◆日 時◆

1年生…7月17日(金)4・5校時

2年生…7月21日(火)5・6校時

3年生…7月22日(水)5・6校時

◆～生徒の感想文より(一部抜粋)～◆

<1年生 男子>

デコトラの運転手が言っていた「人生は一期一会だから、会った人には最高のおもてなしを」という言葉がとても心に響きました。一期一会という言葉は、人の人生を表すのにぴったりの言葉だなと思いました。

<1年生 女子>

この映画を見ていちばん強く思ったことは、自分の行動の責任は自分にある。ということです。日々過ごしている中で、失敗やアクシデントに対して、誰かのせいにしたり自分を守ってしまうことはよくあると思います。しかし私は、自分の行動に責任の持てる大人になりたいと思いました。

<1年生 女子>

初めは、友だちや家族に嘘ばかりついている和也に苛立ちを感じていました。しかし、旅を通じた人との出会いの中で、和也の心情が変わってきていることがよくわかり、見ていておもしろかったです。最終的には父の言葉から和也が本当の居場所を見つけることができたような気がして、良かったと思います。

< 1年生 女子 >

人と人が会うことで生まれるものがあり、それはお金でも買えないし、一人きりでも得ることはできない。一人で生きようとしても、必ず誰かに支えられていくんだと考えると、出会いは、楽しくて貴重なものなんだと思います。そして、出会った人を大切にする気持ちこそが大事なんだと思いました。

< 2年生 女子 >

「人のせいにするか自分のせいにするか」という柳下さんの言葉がすごく印象に残りました。私も人のせいにするのが多く、恥ずかしくなりました。確かに人のせいにするれば一時的に自分の気持ちは落ち着くものの、反省も薄れてしまい、自分が成長するチャンスを潰してしまっていることに気付かされました。

< 2年生 女子 >

空っぽだから嘘をついて中身のあるフリをする主人公が、少しずつ成長して、出会った人を助けてあげていたのはすごい。主人公は出会った人みんなに「また会おう」と言ってもらっていた。全員が必ずまた会えるわけではないけど、人から「また会おう」と言ってもらえる人になりたいと思った。

< 2年生 女子 >

見終わった後、心があったかくなりました。うまく言えないけれど、高校生活はあっという間だし、人生は一度きりなので、思いっきり楽しんで、充実させたいなと思いました。

映画のタイトルでもある「また会おう」という言葉が大好きです。バイバイよりもまたね、の方が安心するものがあります。

< 3年生 男子 >

最初は、どこにでもいる普通の男子高校生の友人関係を描いた物語だと思っていた。でも、話が進むにつれてだんだんと、この映画が何を伝えたいのか考えさせられるような展開になった。自分はこれからどのように生きれば良いかや、気持ちの持ち方など、多くのヒントがこの映画にはありました。今回この映画を見ることができ良かったです。

< 3年生 男子 >

とても良い映画でした。

嘘ばかりついていた和也が、様々な出会いから自分の未熟さや弱さを知り、旅をしながら変わっていく姿に感動しました。また、病気の人や亡くなってしまった人と会うことで、命の大切さも感じたのではないかと思います。柳下さんの言っていた、「自分の主人は自分」「自由」という言葉が、自分の人生を楽しめというメッセージのように聞こえました。

< 3年生 女子 >

この映画を見て、自分は人のために何ができているかを考えた。映画の中の登場人物は、口では厳しいことを言っていたが、和也のためを思っている言動だということがわかった。

亮平が、旅をする前の和也と重なって見えた。お母さんを安心させようと亮平が嘘をつく所を、和也はどんな気持ちで見っていたんだろう…。自分のことしか考えていなかった和也が、最後には亮平にお金を渡したり、目を見て言葉をかけたりして、成長していた。自分も誰かのために一生懸命になれる人間に成長していきたい。

< 3年生 女子 >

とても良い映画でしたが、個人的には3回も吐くシーンがあったのが本当に嫌でした。もう見たくなくなってしまうので、すごくもったいないなあと思ったのですが、リアルな表現がされているのには、何か意図があったのでしょうか？

主人公の姿を見て、見栄を張らず、そのままの自分であるというのはすごく勇気のいることだというのがわかり、私自身も本当の自分ではないなということを感じ知らされました。これからは自然な自分でいられるように、そして友だちにも、その人本来の姿で接してもらえるような人間になりたいと思いました。

< 3年生 女子 >

今回初めてバリアフリー上映を体験しました。途中、視覚障害者の方がどのように感じるのか、目をつぶって見たけれど、ナレーション通りに情景を想像するのがとても難しかったです。いつも気にもしていませんでしたが、目で見えて耳で聞こえることが、どれほどありがたいことなのかを実感しました。

普段のテレビ番組やニュースも、今後もっとバリアフリー化し、多くの人に楽しんでもらえるようになったらいいと思います。